

### 第3回 公共施設等マネジメント推進検討会

#### — 議事録（要旨） —

○日時 : 令和5年11月6日(月) 10時00分~12時00分

○場所 : 香南市役所本庁舎6階 604・605会議室

○出席者 : (委員) ①市長 濱田 豪太

②副市長 別府 誠

③教育長 入野 博

④生涯学習課 山崎課長

⑤企画財政課 西内課長

⑥防災対策課 岡林課長

⑦住宅政策課 浜田課長

⑧高齢者介護課 都築課長

⑨契約管財課 岩田課長

(事務局) ⑩企画財政課 近藤補佐

⑪契約管財課 宮崎補佐

⑫契約管財課 別役補佐

株式会社 GPMO・神原、宮下、松友

○議題 : (1) 各課ヒアリングの結果について

・二軸評価について

・施設カルテについて

(2) セグメント分析(同規模自治体との比較)について【別紙1】

(3) 方針の素案について【別紙2】

(4) LCC(ライフサイクルコスト\_その建物の計画・設計・施工から、維持管理、最終的な解体・廃棄までに要する費用の総額のこと)の算定について

○その他 : (1) 次回の協議事項について

(2) 次回開催日程について

【資料】:【別紙1】分類ごとの数量\_他市事例比較(四国内)

【別紙2】方針素案

## 開会

事務局 開会宣言  
濱田市長 市長挨拶

### 1. 議事

#### (1) 各課ヒアリングの結果について

以下の項目及び施設カルテについて、事務局から説明を行いました。

事務局 各課で一覧表を作り、個別カルテには建物の写真プラス位置情報と配置図のようなものを入れる話が以前ありましたがどのようになってるか。

事務局 現状の施設を整理しているところでまだ仕組みが出来上がっていない。棟の番号を位置図に入れる作業についても、準備はできているが着手していない。各課に入力してもらうかは、市側の事務局と作業の役割分担を相談させていただきたい。

#### (2) セグメント分析（同規模自治体との比較）について

セグメント分析（同規模自治体との比較）について、事務局から説明を行いました。

【別紙1】分類ごとの数量\_他市事例比較（四国内）

事務局 四国内の人口3万人から4万人未満の自治体と比較した表を作成した。合併した自治体についてはその内容も記載している。施設類型ごとに香南市の施設がどれだけの量か見ていただきたい。今後、全国で比較できるよう資料収集を進めている。

#### (3) 方針の素案について

方針の素案（たたき台）について事務局より説明を行いました。

【別紙2】方針素案

委員 長期的な人口に合わせたビジョンに対して財政的な部分など、計画として作り上げた結果を報告するにあたって、見た人たちが理解できるようにもう少し踏み込んでやっていく。公共施設の適正配置、規模適正化があった上の10年後、40年後の話を具体的に示していく。

事務局 ヒアリング結果で各課の微妙なばらつきがありました。もう一度問いかけを行い、本音の部分に近づけるように持っていきたい。関係各課で横方向の議論は一度していただく。40年間については、目標を定め整合がとれるようにしておく必要がある。

委員 人口ビジョンという話がついてくる。その将来ビジョンをもとに中期、長期の財政とリンクさせた内容を作っていた方がよい。市独自の資料として今回作り上げていくならば、もう少し踏み込んだ形を作っていた方がよい。

事務局 人口が大きなファクターになる。この年末ぐらいに、社人研の各市町村の細かな人口予測も出てくると思う。

委員 人口ビジョンの将来の推計を、今ある公共施設総合管理計画の総合ビジョンと連携し

た総合戦略の希望的観測で作るのをやめ、実行性なものにするために、実際の数字を検討せずに考えて作るのは逆に乱暴かと思う。財政的には、本当のリアルな将来推計をどこまで出せるのかあるいはその出した根拠をどう説明するのか難しいと思う。

委員 他自治体において、本気で取り組んでいるところがどれくらいあるのか。

事務局 本気で取り組まれているところが1割です。本当に財政的な規模に合った公共施設の再編が行われているところは、またその2分の1ぐらいだと思います。

委員 財政的なことを理由としてやるのであれば、厳しい数字を示さないと意味が無いと思います。そこを最終的に出すときに、市としての大きな判断が必要になる。

委員 市長の判断として、未来予想というのは確かに難しいけれども、日本国民がどんどん増えていくような状態ではないので、ある程度人数の見直しをして今のうちからコンパクトシティを目標にやるならば、ここまで規模を削減していきたいということを明確にした方がよい。

委員 もうそれはせざるを得ないし、目一杯やれることは出していないといけない。ここ3、4年とかの間にこの話をきちんとしていけば、一定の理解を得られると思います。もうひと十年先を見て考え、後戻りできないぐらいの形を作って示していないと意味がないと思っている。

事務局 本当に何を切るのかよりも何を残さないといけないかみたいところで、引き続き条件整理をしていきます。減ったことによる住民サービスの低下を何で埋めていくのかみたいところも条件を整理しておきたいと思う。

委員 先ほど言った人口を総合戦略（香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン）や公共施設等総合管理計画から実際の数字に置き換えることができるか。

事務局 公表されている数字であればできます。

委員 されています。総合戦略（香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン）に書かれている人工的な目標数値がいきなり今回の施設マネジメントの計画の中で、変わってしまうのは正直大丈夫なのかとは思いますが。施設マネジメントというのは公共施設等総合管理計画であるとか、個別の計画とリンクしているものなので、その解釈をどのようにしてやるのか。

事務局 今回の段階で最も客観的であろうという社人研の値を使うべきだと思います。客観的な値で押さえていくということ、今方向転換しないといけないと思います。

委員 それに関わっている公共施設等総合管理計画を何かしなければならぬ手続き的なものはあるか。

事務局 手続きはない。

委員 合わせて改正するのか。

事務局 更新なり改定なりして、年度ごとに変えていっても構いません。

事務局 LCC算定において、未来の財政規模と比較するときどれだけ充当可能な財源が確保できるか、ある程度出すことは可能か。

委員 それは正直、保証できるようなものはないです。

事務局 どれだけ公共施設の維持に財源を充てるかということは、何かの形で決めないと LCC と対峙することはできないので、そこはまたご相談させていただきたい。

委員 公共施設の適正配置に使える起債でも除却だけだと、見返りがなく結局ローンで壊すだけでしかないということもある。

事務局 課題は、認識させていただきました。

委員 本当は財政がどれだけ出せるかを出してもらいたいけど、まずは同規模の団体と比べて、二軸評価を行って、D は基本廃止ということで検討してもらわないといけなない。

事務局 二軸評価の機能の縦軸がなかなか実態に合っていない。

委員 実態に合っていないのであれば、実態に合うようにしなければならない。それは施設の特性によって変えないといけなない。

事務局 定量的じゃなくて定性的な評価をその機能に入れることは可能ですか。

委員 それは施設によると思います。

事務局 機械的にやっているの、とらえ方をもう一度検討します。

事務局 第 6 章削減の方針、このマネジメントそのものの考え方は財政面を優先した計画であり取り組みであるとする。施設類型ごとに考えていくことが必要。この第 6 章をより具体的に各課とセッションしていく。

委員 5 年度で基本方針、6 年度で計画になっていますが、絶対それで終わらすのか。

事務局 計画は 7 年度になってもいいのではと思っています。

委員 検討委員会の委員はどういう考え方で臨めばよいか同じ認識で動かないと温度差が出てしまう。

事務局 6 年度になってから方針のフィードバックで見直すということはあっても、5 年度中に方針を決めておかないといけなない。

委員 地域への集会所の移管とか移譲ということも入れるのか。

事務局 それも必要だと思います。

事務局 総合管理計画の中で施設の譲渡ことはおおまかに書いています。

事務局 地元移譲についても書きますが、方針を決めたら実施するのは、いつかというところまで決めないといけなないと思います。

事務局 方針を決めることが今年度の目標でありますので、いろんな意見が出ている中で、地域に行って話をすることでこういった議題を含めて話していきますというような羅列を一旦しますので、この検討会の中で、委員の皆さんにご判断いただきたいと思います。

委員 施設ごとの考え方と言われたときに、横断的な面としてみないといけなないというのはある。

委員 あとは学校等の規模適正化等、そこをどういうふうに表すのか。

事務局 学校等の規模適正化は学校等規模適正化方針に基づきます。

- 委員 面で捉えるという話になったら、この施設は、保育も幼稚も小学校も中学校もという地域が実際ある。
- 事務局 そこが本当にその横断的なのところになってくる。
- 委員 市としてどういうふうの一つの面の中で捉えているか、まとまった考え方を持っていないといけない。基本方針にはもちろん書かないといけない。
- 事務局 学校も、公共施設も、市営住宅もと考えると、まちづくりの観点になってくる。
- 委員 香南市は、特に保幼小中の連携と地域をすごく重要視してやってきているので、市として今までやってきた政策がどういうふうに変わるかあるいは変わらないのならどうというやり方するのかということまで問われるかもしれない。
- 委員 そこは、どのように書くか結構難しい。実際、どのような配置になっていくかを見据えて、書き方、エリアの配置の仕方の基本方針がどこまで書けるかを考えていかないとけない。
- 事務局 ヒアリングの結果を見て、もう少し先を見据えた横断的な取り組みっていうのを市として全体的に強く出していかないとけない。市長、主導を是非よろしく願います。
- 委員 都市計画マスタープランの話が出ましたが、いろんなところと連携することが出てくるので、本当に横断的にやっていかないとけない。
- 事務局 関連計画があります。位置づけみたいなものが総合管理計画の中にも、それぞれの計画がリンクし合いますということが書かれています。どの関連計画とどうリンクしていくか、しているのかっていうところまでを本来であればやっていく。
- 委員 公共施設などとリンクしたいろんな計画が結びついていっていることを都市計画マスタープランにきちんと位置づけておかないといけない。
- 事務局 そこは事務局として意識してやっていきたいと思います。どれぐらい具体的に書けるかっていうところについては横断的な作業部会の中で諮って、上げられるところまでは提示をしていく。

#### (4) LCCの算定について

LCCの算定の手法について事務局から説明を行いました。

## 2. その他

### (1) 次回の協議事項について

事務局 次回の開催日程は1月16日火曜日10時から12時に行います。それまでに方針素案の方をお送りできればと考えております。

1月16日に最終となる方針案を見ていただいて、その後2週間内容の精査期間を設けまして、2月当初からパブリックコメントをホームページ等で実施したいと考えております。期間は大体1ヶ月ぐらいと考えておりますので、3月にもう1回検討会を

開き、パブリックコメントの内容をご確認いただきます。それで内容がよろしければ、方針の決定とさせていただきます。予定としては、3月18日に第5回検討会と考えております。

- 委員 パブリックコメントは積極的に意見の徴取をするか、しないか。
- 事務局 方針案の段階で積極的に地域に入っていくということは考えていません。
- 事務局 所管課様が関係する施設で学校の再編に合わせてこういうふうな方針でいきたいみたいなご意見があれば、教えていただきたい。
- 委員 年度末には、今の方針に従って考えられるいくつかのパターンを示しながらそこで意見をまた聞いていくという作業に1年間ぐらいかかります。
- 委員 前回のヒアリングで市営住宅、公営住宅が特に詰め切れてなかった部分が多くございますので、また個別に詰めるような段取りもしていただきたい。
- 事務局 確認させていただきたい事項は文書で送ります。
- 濱田市長 閉会挨拶

以上